

授業概要

シェイクスピアの初期の喜劇『ヴェニスの商人』と悲劇を『ロミオとジュリエット』読む。シェイクスピアの作品は400年間という時間、さらには地域と民族を越えて人々に感銘を与え続けている。人間を学ぶ者として、シェイクスピアを読まずにすませることはできないだろう。舞台という限られた空間に、普遍的な人間の姿を浮き彫りにしたその作品を味わうこととする。

授業計画

第1回	エリザベス朝演劇とシェイクスピアの作品解説
第2回	『ロミオとジュリエット』プロローグから第一幕。エリザベス朝の劇場、中世の宇宙観などを解説
第3回	第一幕(2)。撞着語法に注目して、作品世界の枠組みを理解する
第4回	第二幕(1)二人の出会いにおけるイメージと「星」の影響力の予感
第5回	第二幕(2)「バルコニーの場」からジュリエットに内在する新旧の価値観
第6回	第三幕(1) 運命に操られるロミオ。若者と大人の対立
第7回	第三幕(2) 「バルコニーの場」から二人の別離、乳母の裏切りからジュリエットの覚悟まで
第8回	第四幕 ロレンスの計画とジュリエットの進む想像力
第9回	第五幕 ロレンスの計画を阻む「星」の影響力
第10回	『ヴェニスの商人』第一幕 ヴェニスとベルモント、愛と金銭に代表される対立の図式の解説。「箱選び」の解説(1)
第11回	第二幕 サブプロットについて。箱選びの解説(2)
第12回	第三幕 「男と女」「父と娘」「キリスト教徒とユダヤ人」の対立(1)
第13回	第四幕 「男と女」「父と娘」「キリスト教徒とユダヤ人」の対立(2)
第14回	第五幕 「人肉裁判」「指輪騒動」
第15回	総まとめ（筆記試験）

履修上の注意

テキストは各人が購入し、遅くとも第二回の授業に持ってくる。持参しないものは出席とは認めない。また、予習として音読し、わからない言葉は調べておくこと。授業で基本的な読み方を伝授するので、自分で読むことが必要である。

評価方法

「いかに読んだか」で評価する。

テキスト

『ヴェニスの商人』『ロミオとジュリエット』どちらも、松岡和子訳のちくま文庫版を使用する。
第一回の授業から使用するので、各自で購入すること。書店に注文すると時間がかかるので、見つからない場合は大きめの書店をはしごする、あるいはAmazonなどのネット販売を利用すること。